

2019 年度 学修状況調査

2020 年 6 月 3 日作成

1. はじめに

本調査は2019年度授業が終了した学生に対し、自身の人間的成長を含めた学修状況を確認すると共に学修支援の参考資料を得るため実施した。調査項目は社会人・医療人としての必須能力である「他者との関わり」、「多様な社会への関心」、「思考・判断」、「態度」、「リテラシー」、「授業・グループワークなどでの自己表現」、「学修習慣」についてアンケート調査を行った。

2. 調査方法

今回のアンケート調査は2019年度授業が終了している2020年3月23日より2020年4月10日までの期間に実施した。対象は本学医療学部の在学学生1～3年生（2019年度）の226人とし、4年生は卒業後のため追跡できなかった。Microsoft社製Office365のformsを用い質問票をメール送信し実施した。

3. 結果と補足説明

回答は226名中110名（回収率48.7%）であった。結果の詳細は、質問項目ごとに説明を行う。なお、2018年度前期にも同様のアンケートを実施しており、2018年度1～4年生373名中117名回答（回収率31.4%）であった。

1) 他者との関わり

(1)結果

質問として「他者への関わり；以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表1に示した。また、2018年度前期結果を表2に示した。

表1 2019年度 他者との関わり（（ ）内は%）

	全体		1年次		2年次		3年次	
①友人がいない。	2	(2)	1	(2)	0	(0)	1	(2)
②少数の友人がいる。	54	(49)	20	(49)	9	(35)	24	(56)
③学内に多数の友人がいる。	44	(40)	17	(41)	12	(46)	15	(35)
④学外のコミュニティ(クラブ・同好会など)に参加している。	3	(3)	0	(0)	2	(8)	1	(2)
⑤多くのコミュニティに属し活動している。	8	(7)	3	(7)	3	(12)	2	(5)
計	111	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表2 2018年度 他者との関わり（（ ）内は%）

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①友人がいない。	4	(3)	0	(0)	1	(4)	2	(6)	1	(3)
②少数の友人がいる。	51	(44)	8	(42)	8	(30)	12	(35)	23	(62)
③学内に多数の友人がいる。	47	(40)	10	(53)	12	(44)	15	(44)	10	(27)
④学外のコミュニティ(クラブ・同好会など)に参加している。	13	(11)	1	(5)	6	(22)	3	(9)	3	(8)
⑤多くのコミュニティに属し活動している。	2	(2)	0	(0)	0	(0)	2	(6)	0	(0)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

全体系傾向として「②少数の友人がいる」と「③学内に多数の友人がいる」に2分されており、学年の進行とは関係性が認められなかった。2018年度と比較すると（図1）、2019年度は少数だが「⑤多くのコミュニティに属し活動している」にも各学年1割程度みられた。基礎ゼミやボランティア活動などで地域に出向く機会が多くあり、2019年度は一部でそのような多くの関りをもつ機会が向上したのではないかと考えられる。

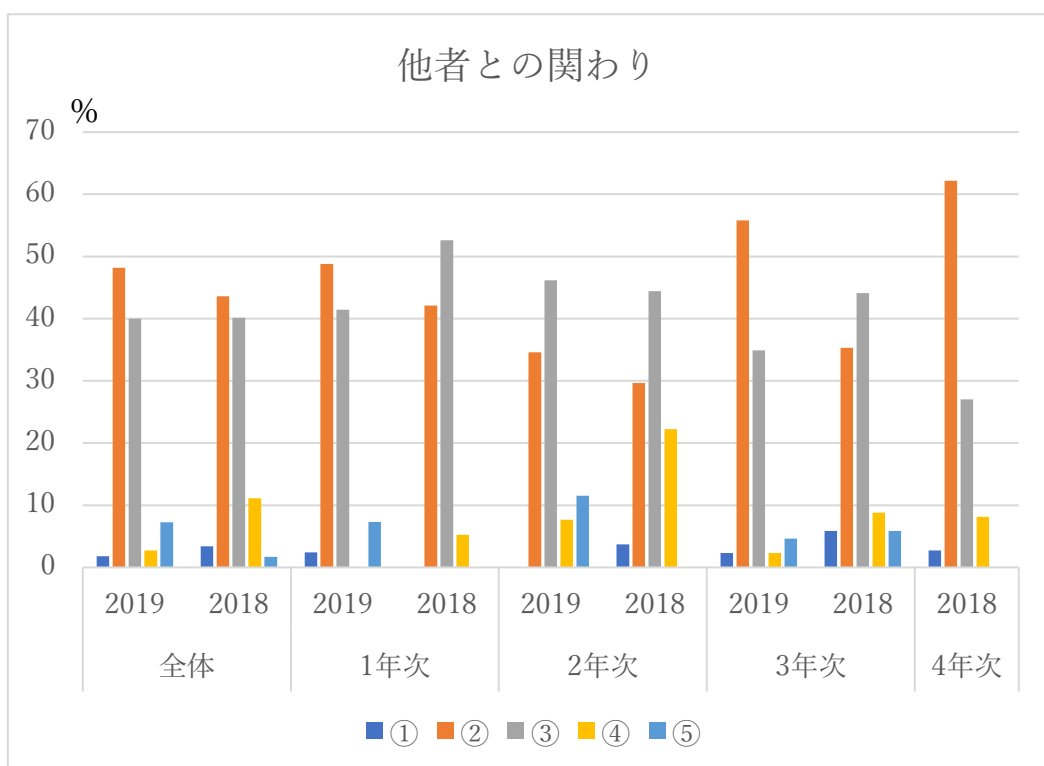


図1 他者との関わり、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

2)多様な社会への関心

(1)結果

質問として「多様な社会への関心; 以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表3に示した。また、2018年度前期結果を表4に示した。

表3 2019年度 多様な社会への関心 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①ニュースなどに全く関心がない。	2	(2)	0	(0)	1	(4)	1	(2)
②ときどきニュースを見る。	55	(50)	24	(59)	11	(42)	20	(47)
③興味のあるニュースについて自分から探して調べる。	38	(35)	13	(32)	11	(42)	14	(33)
④ ③に加え、関連した情報を本やインターネットで調べる。	15	(14)	4	(10)	3	(12)	8	(19)
⑤自ら進んで社会の問題を考え解決しようと行動する。	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表4 2018年度 多様な社会への関心 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ニュースなどに全く関心がない。	9	(8)	2	(11)	3	(11)	3	(9)	1	(3)
②ときどきニュースを見る。	67	(57)	13	(68)	17	(63)	19	(56)	18	(49)
③興味のあるニュースについて自分から探して調べる。	26	(22)	2	(11)	5	(19)	8	(24)	11	(30)
④ ③に加え、関連した情報を本やインターネットで調べる。	14	(12)	2	(11)	2	(7)	4	(12)	6	(16)
⑤自ら進んで社会の問題を考え解決しようと行動する。	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(3)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

ニュースなど世の情勢を知ることに関心がない学生は少ないが、ときどきニュースを見たり、興味ある事柄だけ自分で調べる程度である。学年の進行性との関連は認められなかった。また、2018年度と比較すると(図2)、「①ニュースなどに全く関心がない。」割合が2019年度の方

が低く、社会生活を送るうえでのニュースは、最低限でも情報を得ることが必要であると認識されてきた結果ではないかと思われた。

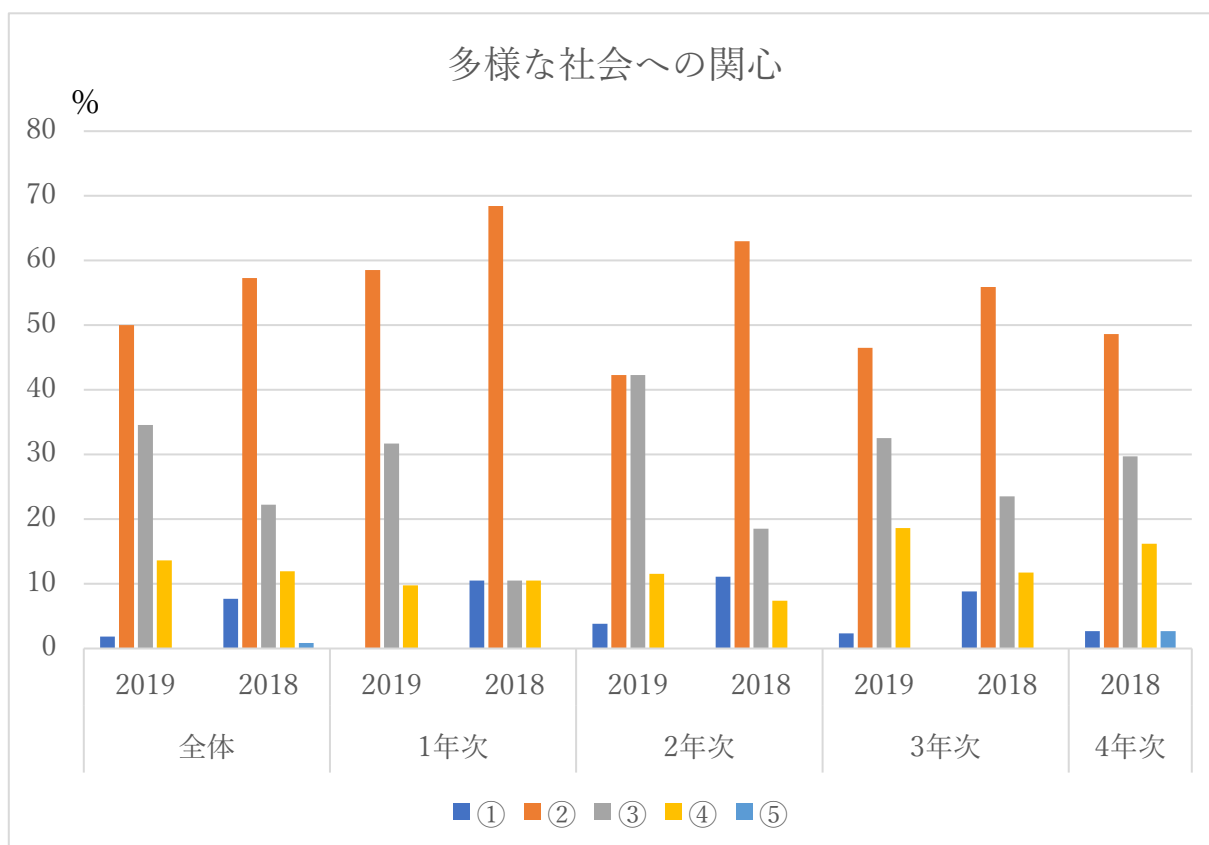


図2 多様な社会への関心、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

3) 人文科学分野の単位取得状況

(1) 結果

質問として「今まで取得した(人文科学分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表5に示した。また、2018年度前期結果を表6に示した。

表5 2019年度 人文科学分野の単位取得状況 (() 内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した単位がない。	6	(5)	2	(5)	2	(8)	2	(5)
②1単位取得している。	5	(5)	2	(5)	0	(0)	3	(7)
③2単位取得している。	17	(15)	7	(17)	2	(8)	8	(19)
④3単位取得している。	33	(30)	19	(46)	5	(19)	9	(21)
⑤4単位以上取得している。	49	(45)	11	(27)	17	(65)	21	(49)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表6 2018年度 人文科学分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
②1単位取得している。	4	(4)	1	(6)	0	(0)	2	(7)	1	(3)
③2単位取得している。	28	(26)	10	(56)	7	(32)	6	(21)	5	(14)
④3単位取得している。	29	(27)	7	(39)	6	(27)	7	(24)	9	(24)
⑤4単位以上取得している。	45	(42)	0	(0)	9	(41)	14	(48)	22	(59)
計	106	(100)	18	(100)	22	(100)	29	(100)	37	(100)

(2)補足説明

1年次では3単位取得が最も多く、2、3年次で4単位以上取得した学生が多くなっている。4単位以上取得した学生について、2年次は65%、3年次は49%と、この分野の取得する単位数が各学年で若干ばらつきがあるものと思われた。2018年度と比較すると(図3)、2018年度は「①取得した単位がない。」という学生は全くいなかったが、2019年度は少数存在している。また、2018年度は1、2年次の取得単位数が少ないが、2018年度は8月中旬にとったアンケートなので、まだ前期の成績が確定していない科目の影響もあることが推測された。

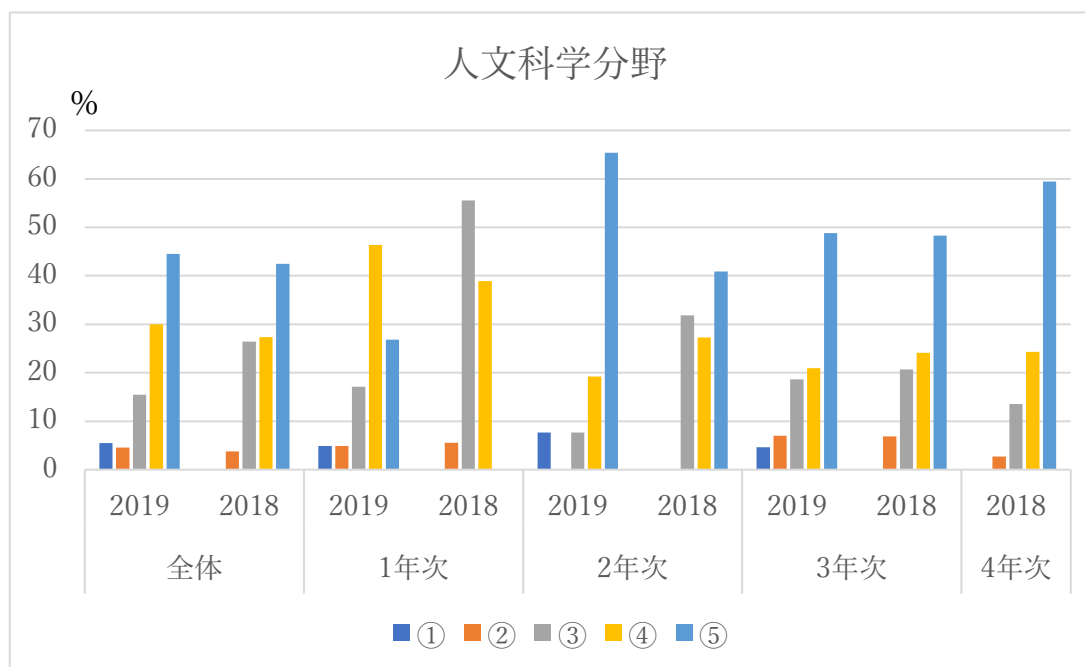


図3 人文科学分野の単位取得状況、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

4) 自然科学分野の単位取得状況

(1)結果

質問として「今まで取得した(自然科学分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表7に示した。また、2018年度前期結果を表8に示した。

表7 2019年度 自然科学分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した科目がない。	5	(5)	2	(5)	2	(8)	1	(2)
②1単位取得している。	8	(7)	4	(10)	0	(0)	4	(9)
③2単位取得している。	9	(8)	1	(2)	2	(8)	6	(14)
④3単位取得している。	7	(6)	6	(15)	1	(4)	0	(0)
⑤4単位以上取得している。	81	(74)	28	(68)	21	(81)	32	(74)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表8 2018年度 自然科学分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	11	(9)	1	(5)	5	(19)	4	(12)	1	(3)
②1単位取得している。	3	(3)	2	(11)	0	(0)	1	(3)	0	(0)
③2単位取得している。	25	(21)	2	(11)	9	(33)	10	(29)	4	(11)
④3単位取得している。	3	(3)	2	(11)	0	(0)	0	(0)	1	(3)
⑤4単位以上取得している。	75	(64)	12	(63)	13	(48)	19	(56)	31	(84)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

自然科学分野の科目は医療との関りが深いことにより、多くの科目を履修するよう指導している
ので1年次から4単位以上取得した学生が多く見られた。2018年度と比較すると(図4)、2019年
度は2、3年次で7割~8割程度の学生が4単位上取得している分野であるが、2018年度は4単位
上取得した学生について、3年次は56%、4年次は84%と学年によって履修した単位数にばらつき
がみられた。

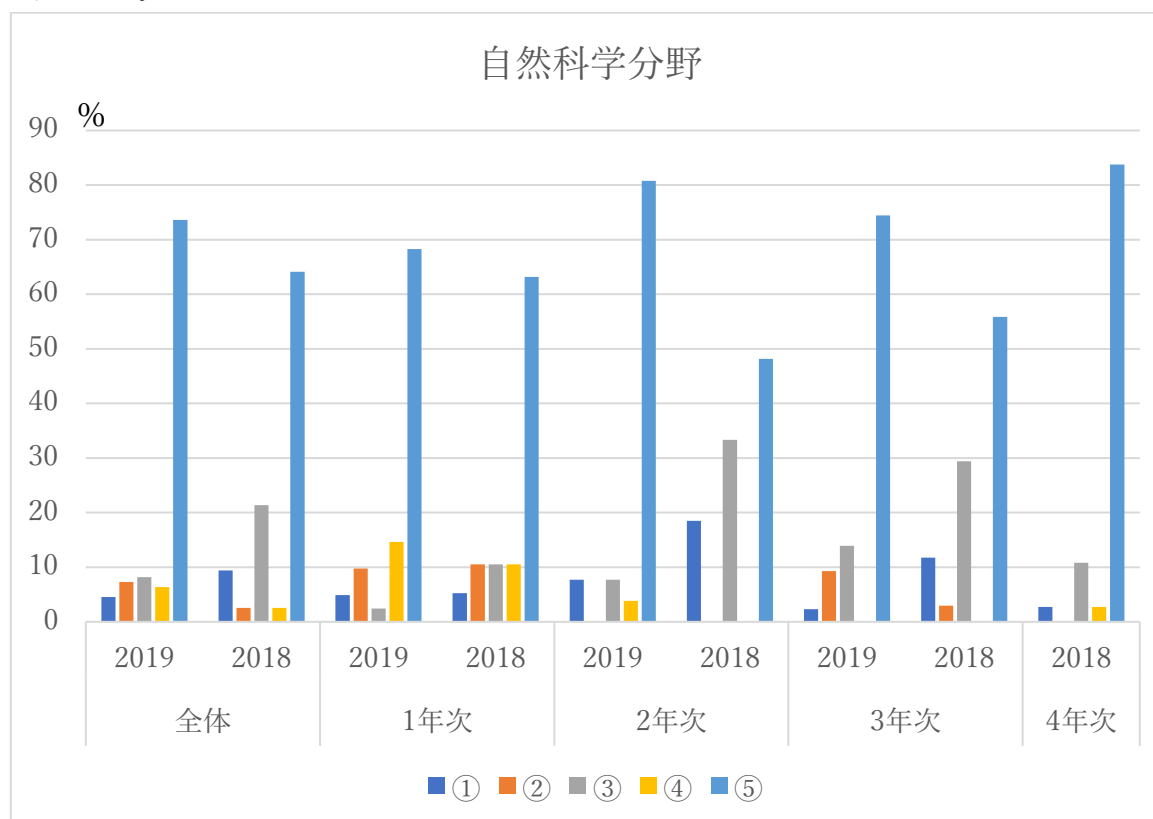


図4 自然科学分野の単位取得状況、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

5) 社会科学分野の単位取得状況

(1)結果

質問として「今まで取得した(社会科学分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表9に示した。また、2018年度前期結果を表10に示した。

表9 2019年度 社会科学分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した単位がない。	4	(4)	2	(5)	2	(8)	0	(0)
②1単位取得している。	6	(5)	3	(7)	0	(0)	3	(7)
③2単位取得している。	38	(35)	16	(39)	6	(23)	16	(37)
④3単位取得している。	4	(4)	3	(7)	1	(4)	0	(0)
⑤4単位以上取得している。	58	(53)	17	(41)	17	(65)	24	(56)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表10 2018年度 社会科学分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	15	(13)	6	(32)	5	(19)	4	(12)	0	(0)
②1単位取得している。	9	(8)	6	(32)	2	(7)	0	(0)	1	(3)
③2単位取得している。	27	(23)	7	(37)	7	(26)	7	(21)	6	(16)
④3単位取得している。	3	(3)	0	(0)	0	(0)	1	(3)	2	(5)
⑤4単位以上取得している。	63	(54)	0	(0)	13	(48)	22	(65)	28	(76)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

社会科学分野の科目は、1、2年次で2単位もしくは4単位以上取得した学生が多く、半数以上が4単位以上取得する分野であることが分かる。2018年度と比較すると(図5)、2019年度の方が1年次からこの分野の科目を多く取得している学生が多い。

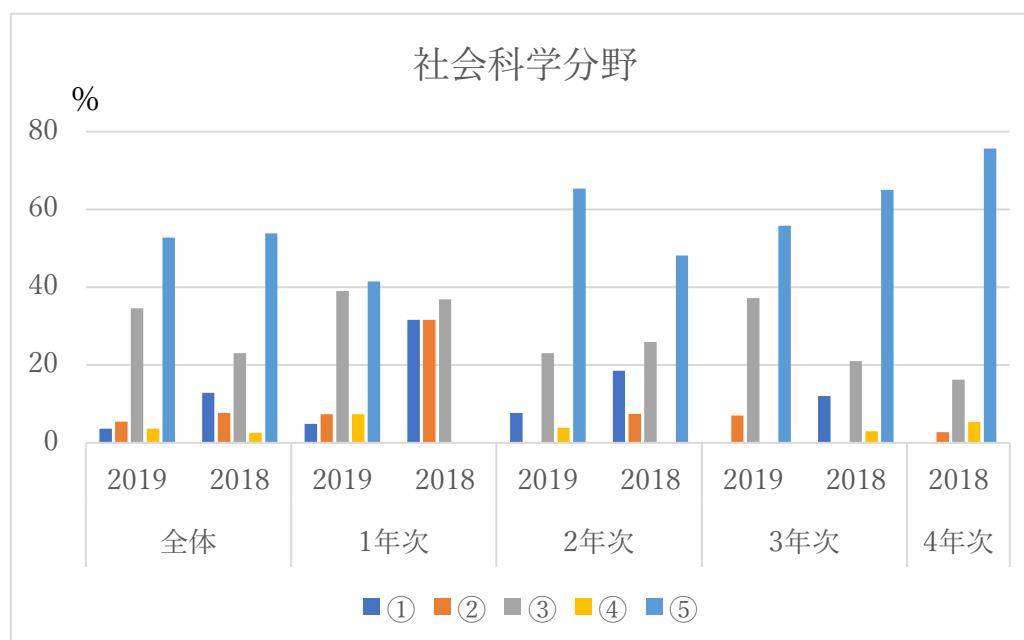


図5 社会科学分野の単位取得状況、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

6) 外国語分野の単位取得状況

(1)結果

質問として「今まで取得した(外国語分野)の単位取得状況について選択してください。注)取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表11に示した。また、2018年度前期結果を表12に示した。

表11 2019年度 外国語分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した単位がない。	2	(2)	1	(2)	1	(4)	0	(0)
②1単位取得している。	4	(4)	1	(2)	1	(4)	2	(5)
③2単位取得している。	7	(6)	4	(10)	0	(0)	3	(7)
④3単位取得している。	3	(3)	1	(2)	0	(0)	2	(5)
⑤4単位以上取得している。	94	(85)	34	(83)	24	(92)	36	(84)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表12 2018年度 外国語分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
②1単位取得している。	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(3)
③2単位取得している。	16	(15)	6	(32)	5	(23)	3	(9)	2	(5)
④3単位取得している。	6	(5)	0	(0)	1	(5)	5	(16)	0	(0)
⑤4単位以上取得している。	87	(79)	13	(68)	16	(73)	24	(75)	34	(92)
計	110	(100)	19	(100)	22	(100)	32	(100)	37	(100)

(2)補足説明

教養科目のうち、外国語の卒業要件は4単位以上であることも影響し、1年次で4単位以上取得することが多いものと思われる。2018年度と比較すると(図6)、2018年度は1年次で2単位のみ取得する学生も多く存在している可能性があるが、2018年度は8月中旬にとったアンケートなので、まだ前期の成績が確定していない科目の影響も考えられた。

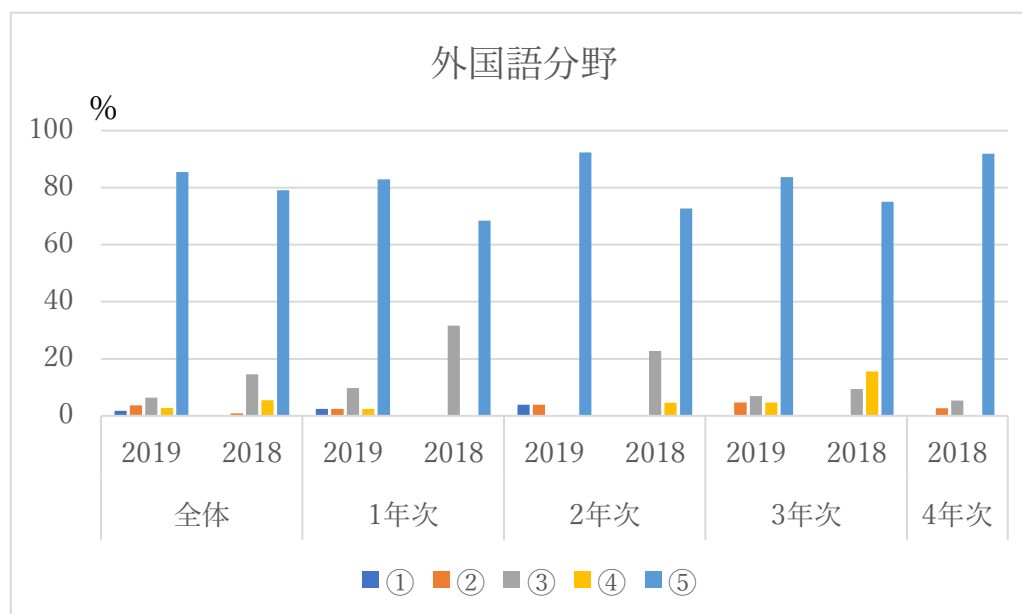


図6 外国語分野の単位取得状況、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

7) 専門基礎分野の単位取得状況

(1) 結果

質問として「今まで取得した(専門基礎分野の単位取得状況)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表13に示した。また、2018年度前期結果を表14に示した。

表13 2019年度 専門基礎分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した科目がない。	3	(3)	2	(5)	1	(4)	0	(0)
②1-11単位取得している。	3	(3)	3	(7)	0	(0)	0	(0)
③12--23単位取得している。	36	(33)	32	(78)	1	(4)	3	(7)
④24-35目取得している。	15	(14)	2	(5)	18	(69)	7	(16)
⑤36単位以上取得している。	53	(48)	2	(5)	6	(23)	33	(77)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表14 2018年度 専門基礎分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	4	(3)	0	(0)	4	(15)	0	(0)	0	(0)
②1-11単位取得している。	21	(18)	19	(100)	1	(4)	0	(0)	1	(3)
③12--23単位取得している。	12	(10)	0	(0)	7	(26)	3	(9)	2	(5)
④24-35目取得している。	34	(29)	0	(0)	14	(52)	12	(35)	8	(22)
⑤36単位以上取得している。	46	(39)	0	(0)	1	(4)	19	(56)	26	(70)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2) 補足説明

専門基礎分野の多くの科目が1、2年次に配当され、選択科目も少くなるので、ばらつきが少ない。2018年度と比較すると(図7)、2019年度と同様のことが考察できる。2018年度の1年次前期の取得単位は11単位以内なので全員が②を選択している結果となっている。

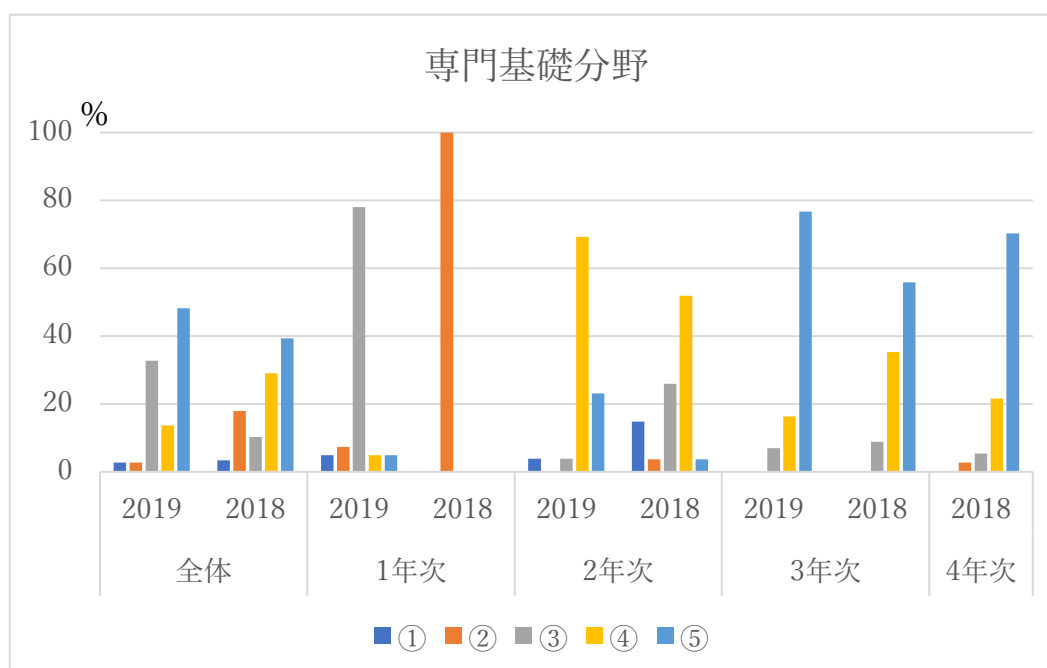


図7 専門基礎分野の単位取得状況、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

8) 専門分野の単位取得状況

(1) 結果

質問として「今まで取得した(専門分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表15に示した。また、2018年度前期結果を表16に示した。

表15 2019年度 専門分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した科目がない。	3	(3)	2	(5)	1	(4)	0	(0)
②1-22単位取得している。	57	(52)	38	(93)	16	(62)	3	(7)
③23-45単位取得している。	14	(13)	0	(0)	8	(31)	6	(14)
④46-67単位取得している。	29	(26)	1	(2)	0	(0)	28	(65)
⑤68単位以上取得している。	7	(6)	0	(0)	1	(4)	6	(14)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表16 2018年度 専門分野の単位取得状況 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	7	(6)	2	(11)	5	(19)	0	(0)	0	(0)
②1-22単位取得している。	47	(40)	17	(89)	21	(78)	7	(21)	2	(5)
③23-45単位取得している。	35	(30)	0	(0)	1	(4)	25	(74)	9	(24)
④46-67単位取得している。	24	(21)	0	(0)	0	(0)	2	(6)	22	(59)
⑤68単位以上取得している。	4	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	4	(11)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2) 補足説明

専門分野は多くが2年次以降に配当される科目であり、ほとんど必修科目のため、1年次の単位取得数は少なく、各学年においてもばらつきは少ない。2018年度と比較(図8)しても同様の状況である。

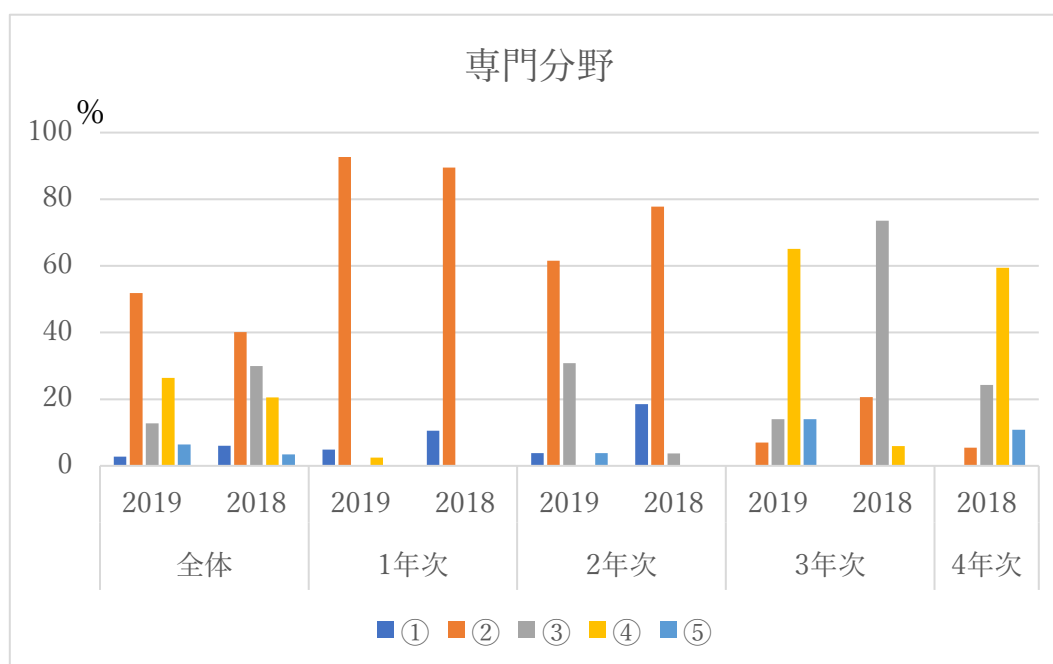


図8 専門分野の単位取得状況、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

9) 思考・判断

(1) 結果

質問として「思考・判断; 日々の学内外の生活で直面する問題・課題についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表17に示した。また、2018年度前期結果を表18に示した。

表17 2019年度 思考・判断 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①自分で考え・判断することができない。	2	(2)	0	(0)	0	(0)	2	(5)
②課題の理解と判断に多くのアドバイスが必要である。	25	(23)	12	(29)	2	(8)	11	(26)
③少しのアドバイスがあれば課題についての理解と判断ができる。	55	(50)	22	(54)	14	(54)	19	(44)
④ほとんど自分で考え判断し行動できる。	23	(21)	7	(17)	7	(27)	9	(21)
⑤全ての事柄において自分で考え・判断し行動している。	5	(5)	0	(0)	3	(12)	2	(5)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

表18 2018年度 思考・判断 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①自分で考え・判断することができない。	3	(3)	0	(0)	2	(7)	1	(3)	0	(0)
②課題の理解と判断に多くのアドバイスが必要である。	22	(19)	3	(16)	2	(7)	8	(24)	9	(33)
③少しのアドバイスがあれば課題についての理解と判断ができる。	64	(55)	11	(58)	17	(63)	19	(56)	7	(26)
④ほとんど自分で考え判断し行動できる。	24	(21)	5	(26)	6	(22)	4	(12)	9	(33)
⑤全ての事柄において自分で考え・判断し行動している。	4	(3)	0	(0)	0	(0)	2	(6)	2	(7)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	27	(100)

(2) 補足説明

自力で思考・判断できる学生の割合は学年進行に関連せず、約半数の学生が「③少しのアドバイスがあれば課題についての理解と判断ができる」と回答している。2018年度と比較(図9)しても同様の状況である。

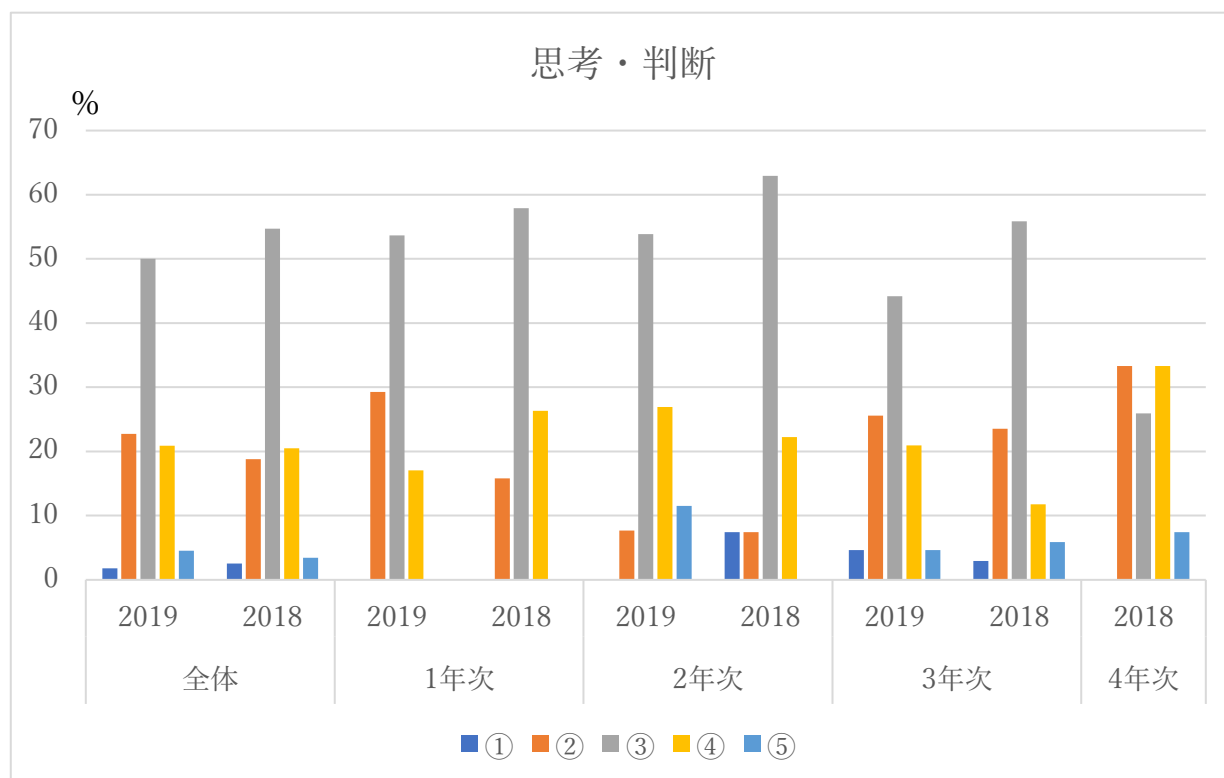


図9 思考・判断、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

10) 態度

(1) 結果

質問として「態度; 日頃、自分が他者にとっての態度についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表19に示した。また、2018年度前期結果を表20に示した。

表19 2019年度 態度 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①自分の考えだけで行動することが多い。	3	(3)	1	(2)	0	(0)	2	(5)
②友人・親などの意見を聞くことが自分の考えに固執する。	8	(7)	3	(7)	1	(4)	4	(10)
③他者の意見も参考として自己の良心と最低限の社会的ルールに従って行動できる	54	(49)	23	(56)	12	(46)	17	(41)
④自らを律し他者の意見と社会的ルールに従って行動できる。	33	(30)	11	(27)	9	(35)	13	(32)
⑤自己より他者の立場に立って社会的ルールを超えた倫理観に基づいて行動できる	12	(11)	3	(7)	4	(15)	5	(12)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

表20 2018年度 態度 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①自分の考えだけで行動することが多い。	3	(3)	0	(0)	1	(4)	0	(0)	2	(7)
②友人・親などの意見を聞くことが自分の考えに固執する。	6	(5)	1	(5)	2	(7)	1	(3)	2	(7)
③他者の意見も参考として自己の良心と最低限の社会的ルールに従って行動できる。	64	(55)	11	(58)	17	(63)	21	(62)	5	(19)
④自らを律し他者の意見と社会的ルールに従って行動できる。	38	(32)	6	(32)	5	(19)	11	(32)	16	(59)
⑤自己より他者の立場に立って社会的ルールを超えた倫理観に基づいて行動できる。	6	(5)	1	(5)	2	(7)	1	(3)	2	(7)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	27	(100)

(2) 補足説明

学年の進行性に関係なく、多くの学生が他者の意見や社会的ルールを尊重して行動できると回答している。2018年度と比較すると(図10)、同様の状況ではあるが、学年の進行に従ってその傾向が強くなっている。

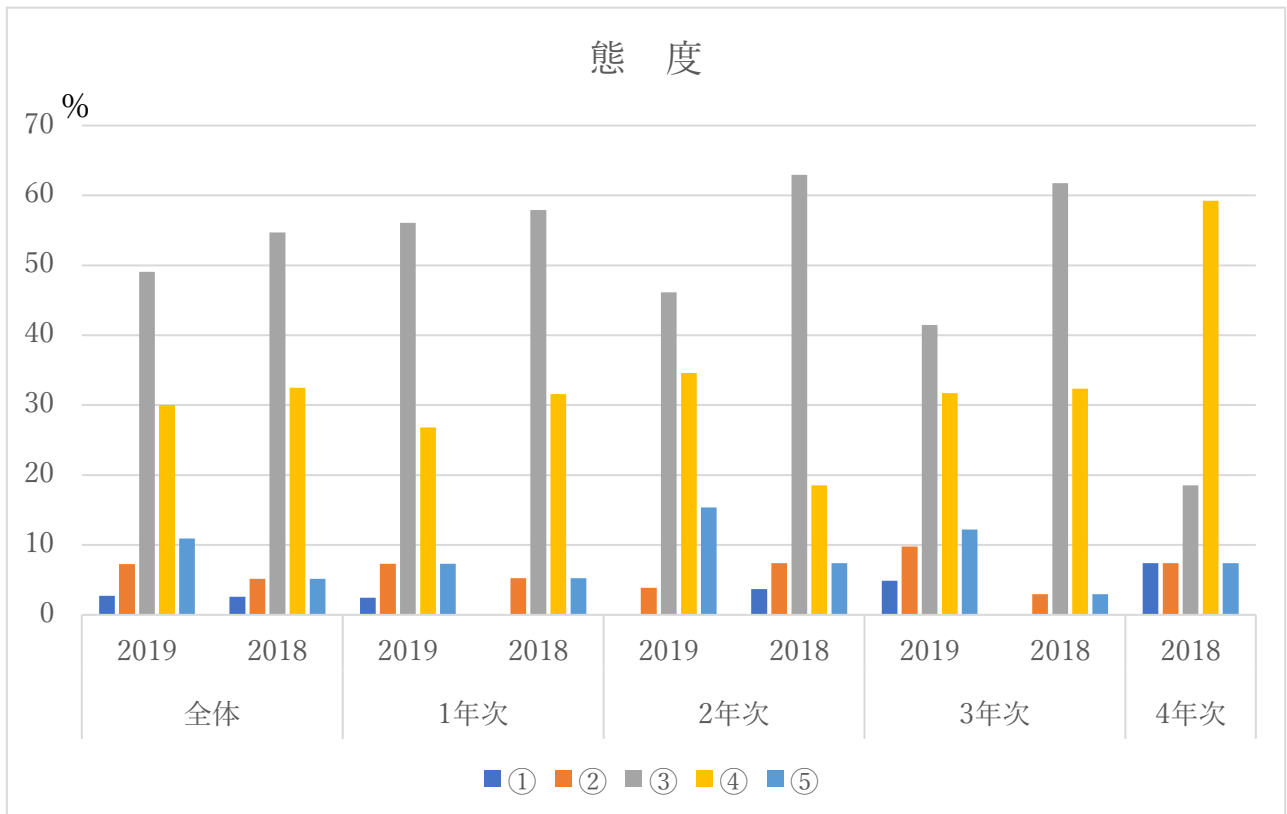


図10 態度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

11) レポート作成能力

(1)結果

質問として「レポート作成能力; 以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表21に示した。また、2018年度前期結果を表22に示した。

表21 2019年度 レポート作成能力 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①ほとんど他の学生や資料をそのまま写している。	3	(3)	2	(5)	0	(0)	1	(2)
②グラフや図などの工夫が自分で行える。	20	(18)	12	(29)	3	(12)	5	(12)
③ ②に加え、自分の考えを文章として表現できる。	45	(41)	21	(51)	10	(38)	12	(29)
④ ③に加え教科書で調べ結果を考察できる。	31	(28)	4	(10)	10	(38)	17	(41)
⑤ ④に加え専門誌などの文献も調べ結果を考察できる。	11	(10)	2	(5)	3	(12)	6	(15)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

表22 2018年度前期 レポート作成能力 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ほとんど他の学生や資料をそのまま写している。	10	(9)	3	(16)	1	(4)	1	(3)	5	(14)
②グラフや図などの工夫が自分で行える。	28	(24)	6	(32)	6	(22)	8	(24)	8	(22)
③ ②に加え、自分の考えを文章として表現できる。	41	(35)	6	(32)	11	(41)	15	(44)	9	(24)
④ ③に加え教科書で調べ結果を考察できる。	25	(21)	3	(16)	7	(26)	5	(15)	10	(27)
⑤ ④に加え専門誌などの文献も調べ結果を考察できる。	13	(11)	1	(5)	2	(7)	5	(15)	5	(14)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

ほぼ全員がグラフや図を作成でき、他の資料や友達の資料をそのまま写すことは無いが、極少数はそのまま写す学生がいる状況である。また、自分の考えを表現したり、考察をすることが学年の進行に伴い漸次増加している。2018年度と比較すると(図11)、他の資料や友達の資料をそのまま写す学生が2019年度では少なくなっており、著作権の問題等が、教員からの指導や社会で厳しく言われるようになった経緯も影響しているのではないかと考えられた。

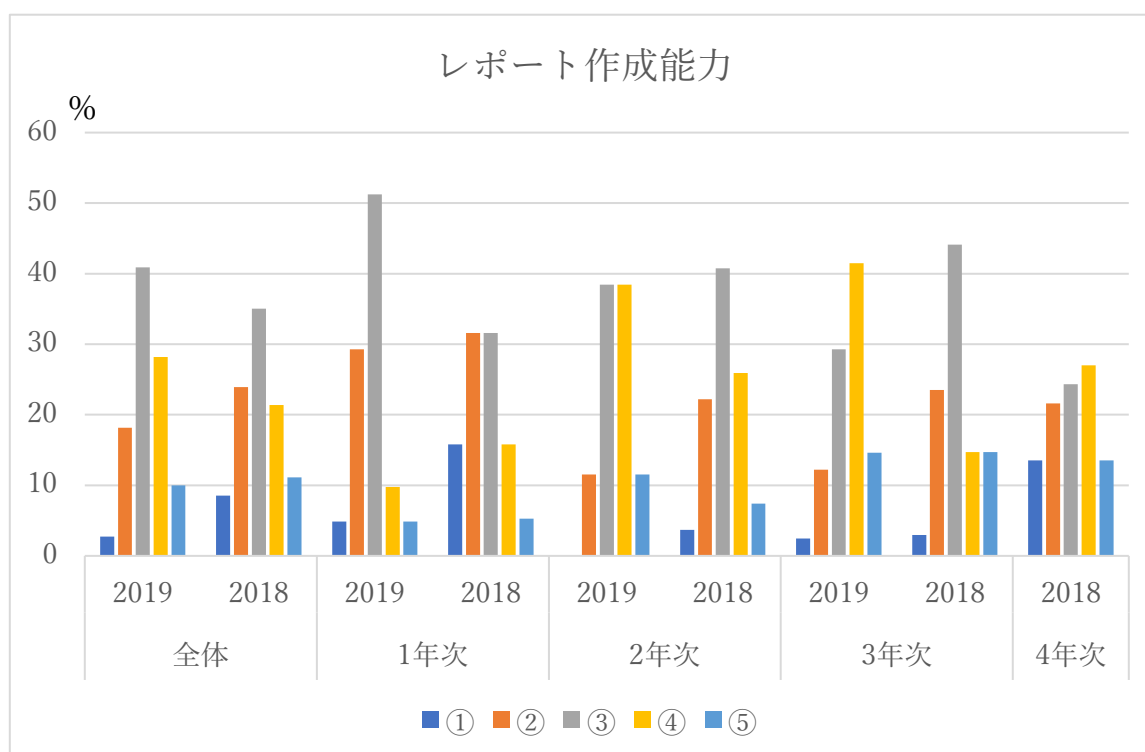


図 11 レポート作成能力、2019 年度、2018 年度の全体および各学年の比較

12) 情報リテラシー

(1)結果

質問として「情報リテラシー；以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表 23 に示した。また、2018 年度前期結果を表 24 に示した。

表 23 2019 年度 情報リテラシー (() 内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①学内メール(Office365)の設定ができていない。	2	(2)	2	(5)	0	(0)	0	(0)
②学内メールの設定が出来ている。	9	(8)	4	(10)	1	(4)	4	(10)
③ ②に加えWord, Excelを使用しレポートを作成できる。	10	(9)	9	(22)	1	(4)	0	(0)
④ ③に加えPowerPointで発表資料を作成できる。	47	(43)	20	(49)	10	(38)	17	(41)
⑤ ④に加え文献検索とダウンロードを行える。	42	(38)	6	(15)	14	(54)	20	(49)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

表 24 2018 年度 情報リテラシー (() 内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①学内メール(Office365)の設定ができていない。	8	(7)	2	(11)	4	(15)	2	(6)	0	(0)
②学内メールの設定が出来ている。	21	(18)	5	(26)	5	(19)	4	(12)	7	(19)
③ ②に加えWord, Excelを使用しレポートを作成できる。	16	(14)	4	(21)	5	(19)	5	(15)	2	(5)
④ ③に加えPowerPointで発表資料を作成できる。	28	(24)	7	(37)	6	(22)	11	(32)	4	(11)
⑤ ④に加え文献検索とダウンロードを行える。	44	(38)	1	(5)	7	(26)	12	(35)	24	(65)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

1 年次から多くの学生がワード、エクセル、パワーポイントを使え、学年の進行に伴い徐々にできるようになる。また、文献検索などは1 年次ではほとんどできないが、学年の進行に伴いできるようになる。これは臨床実習や卒業研究で文献検索が特に必要になってくることも影響していると考えられる。2018 年度と比較 (図 12) しても同様の状況である。

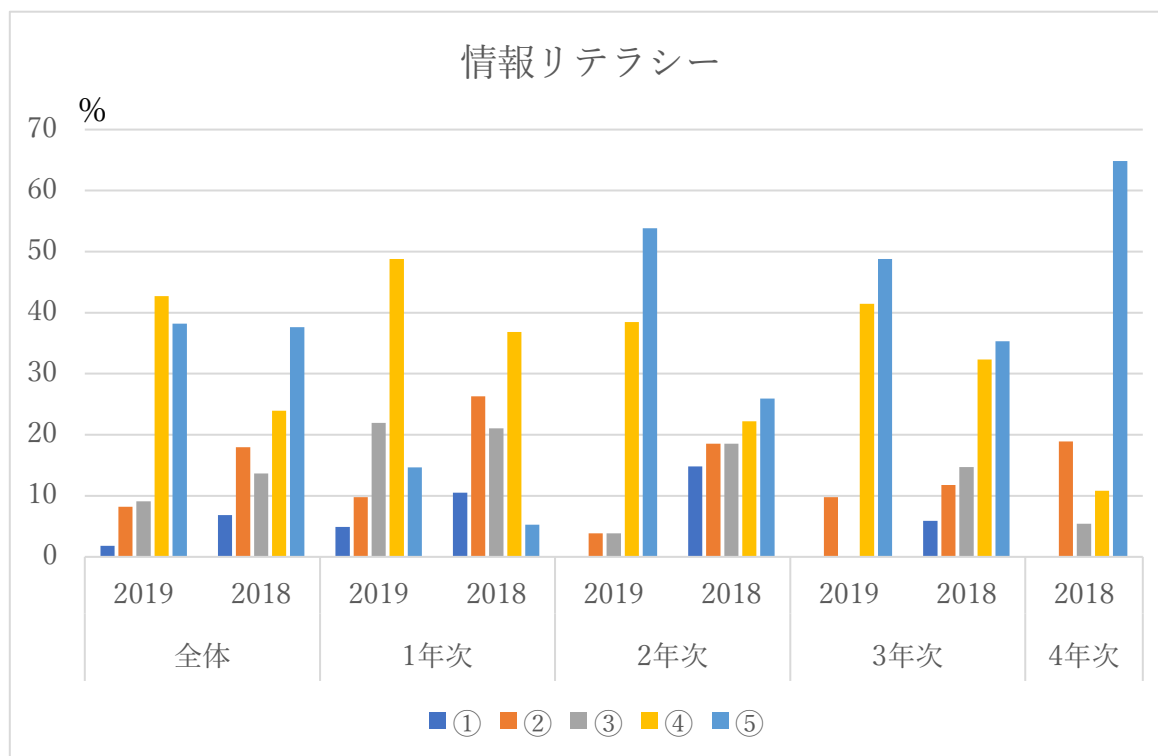


図 12 情報リテラシー、2019 年度、2018 年度の全体および各学年の比較

13) 表現

(1)結果

質問として「表現; 授業・グループワークなどでの自己表現についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表 25 に示した。また、2018 年度前期結果を表 26 に示した。

表 25 2019 年度 表現 (() 内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①発言したことがない。	1	(1)	0	(0)	0	(0)	1	(2)
②指定されれば自分の意見を述べるができる。	41	(37)	20	(49)	8	(31)	13	(32)
③自分から進んで発言することがあるが多くはない。	42	(38)	16	(39)	11	(42)	13	(32)
④積極的に発言をするが十分自分の意見を伝えられない。	13	(12)	3	(7)	2	(8)	8	(20)
⑤積極的に発言し十分自分の意見を表現できる。	13	(12)	2	(5)	5	(19)	6	(15)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

表 26 2018 年度 表現 (() 内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①発言したことがない。	2	(2)	0	(0)	1	(4)	0	(0)	1	(3)
②指定されれば自分の意見を述べるができる。	31	(26)	6	(32)	6	(22)	10	(29)	9	(24)
③自分から進んで発言することがあるが多くはない。	51	(44)	7	(37)	11	(41)	12	(35)	21	(57)
④積極的に発言をするが十分自分の意見を伝えられない。	6	(5)	1	(5)	0	()	4	(12)	1	(3)
⑤積極的に発言し十分自分の意見を表現できる。	27	(23)	5	(26)	9	(33)	8	(24)	5	(14)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

多くの学生が「②指定されれば自分の意見を述べるができる。」から「③自分から進んで発言することがあるが多くはない。」と回答している。学年の進行に伴い、徐々に積極的に発言できる学生も増えていくが1~2割程度である。2018 年度と比較すると(図 13)、2019 年度と同様に②、③の自分からはあまり発言しないという状況が多く、積極的に発言する学生も2割程度であるが、学年の進行に伴う変化が少ない。

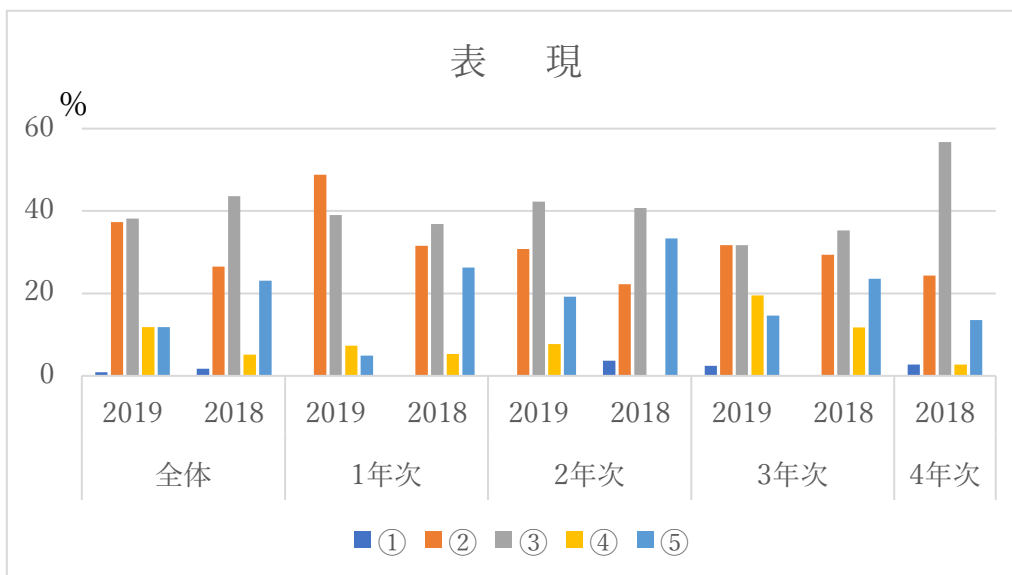


図 13 表現、2019 年度、2018 年度の全体および各学年の比較

14) 学修の習慣

(1) 結果

質問として「学修の習慣; 日頃の勉強時間についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表27に示した。また、2018年度前期結果を表28に示した。

表27 2019年度 学修の習慣 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次	
①ほとんど勉強していない。	9	(8)	5	(12)	2	(8)	2	(5)
②1日平均1時間未満	30	(27)	10	(24)	12	(46)	8	(20)
③1日平均1時間以上~2時間未満	56	(51)	22	(54)	11	(42)	21	(51)
④1日平均2時間以上~4時間未満	13	(12)	4	(10)	1	(4)	8	(20)
⑤1日平均4時間以上	2	(2)	0	(0)	0	(0)	2	(5)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

表28 2018年度 学修の習慣 (()内は%)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ほとんど勉強していない。	17	(15)	2	(11)	7	(26)	3	(9)	5	(14)
②1日平均1時間未満	32	(27)	7	(37)	9	(33)	10	(29)	6	(16)
③1日平均1時間以上~2時間未満	43	(37)	9	(47)	9	(33)	13	(38)	12	(32)
④1日平均2時間以上~4時間未満	15	(13)	1	(5)	2	(7)	8	(24)	4	(11)
⑤1日平均4時間以上	10	(9)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	10	(27)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2) 補足説明

1年次では1~2時間の学修が多いものの、2年次では1時間未満の方が多くなっている。3年次では臨床実習や国家試験も強く意識するためか、学修時間が多くなる傾向である。2018年度と比較すると(図14)、2018年度は1、2年次ともに1時間未満もしくは1~2時間程度がほぼ同数が多い。3年次より徐々に学修時間が多くなるのは2019年度と同様である。特に4年次は国家試験も強く意識されることもあり、4時間以上学修する学生も多くなっている。

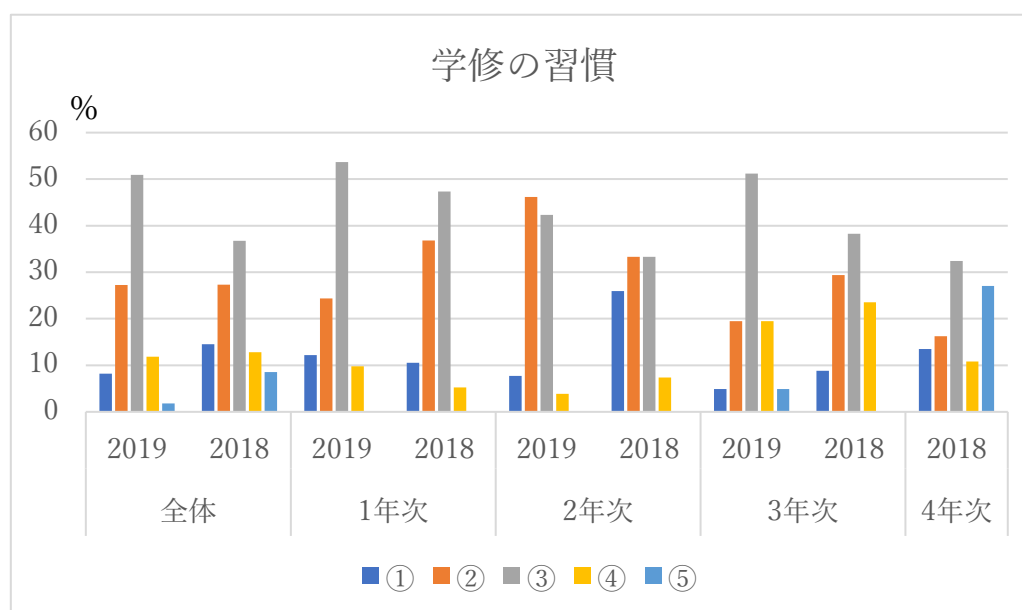


図14 学修の習慣、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較